

医薬品産業の更なる発展を目指して

薬事総合研究開発センター

試験課長 O. M.

平成 11 年採用

薬事研究所バイオテクノロジー・和漢薬研究課を経て平成 30 年 4 月から現所属



富山・バーゼルジョイントシンポジウムの参加者
(バーゼル大学にて 筆者・左端から 2 番目)



医薬品の分析法に関する技術指導の様子
(質量分析室にて)

当センターの業務概要

当センターでは、最先端の研究機器や医薬品分析機器、製剤機器を導入し、県内製薬企業における医薬品開発の技術支援や県内大学等との共同研究、県内の高校生や大学生に対する医薬品実習を通じた専門人材の育成を主に行っています。また、スイスのバーゼル大学やフリードリッヒ・ミーシャ生物学研究所との学術交流、国立医薬品食品衛生研究所との共同研究も進めています。さらに、薬用植物の栽培普及や厚生労働省からのジェネリック医薬品品質確保等に関する委託事業も行っています。

ある 1 日のスケジュール

8:30	<出勤・執務開始> ▼ メールチェック、回覧物等の確認
9:00	<研究業務> ▼ 天然物の薬効評価と作用メカニズムの解析 ・培養細胞の遺伝子発現に及ぼす検体の影響をリアルタイム PCR 法で検討 ・疾患モデル動物に検体を投与し、薬理効果を評価 ・実験データの解析と実験ノートの整理
12:00	昼食・休憩
13:00	<医薬品試験> ▼ 日本薬局方に基づいたジェネリック医薬品の溶出試験 ・溶出試験器や液体クロマトグラフにより有効成分の溶出量を定量 ・データを解析し、規格に適合しているかを判定
17:00	<メールチェック> ▼ 照会等への回答
17:15	退庁

仕事の心構え・やりがい

医薬品産業は、富山県において最も重要な産業の一つです。当センターは 90 年以上の歴史を持ち、県内薬業界の発展に寄与してきました。そして、これからもさらなる発展に向け取り組んでいきます。

しかし、どのような研究・事業を行えば薬業界に貢献できるのか、それを見極めることは容易ではありません。時代のニーズを捉え、しっかり考えることが必要です。そして、一度やり始めたらブレずにやり遂げることが重要です。なかなか思うように進まないことも多々ありますが、そう心掛けています。当センターでは、これまでの重要な仕事は継続しつつ、近未来を見据えた新しい研究や事業に積極的にチャレンジしています。そこにやりがいを感じます。

職場の雰囲気

研究や事業を企画し進める上で、本人の意欲やアイデアをととても大切にしています。また、目標に向かって皆が一丸となって取り組んでいます。研究や事業は数人単位のプロジェクトとして進めていて、悩むことがあれば皆で相談し協力し合う雰囲気があります。一方、科学研究費補助金を獲得し、独自の研究も進めている職員や、大学の博士課程に通い学位を取得した職員もいます。自分のやる気を大いに活かせる職場です。

メッセージ

富山県の医薬品産業は 300 年以上の歴史を築いてきました。この歴史の継続とさらなる発展に、あなたの意欲、アイデア、経験を活かしてみませんか。